

# 学びの広場



京都市教育委員会  
教員養成支援室  
令和6年10月26日 No.2

## 第19期 京都教師塾 入塾式

第19期京都教師塾は、入塾者218名でスタートしました。10月12日に実施した入塾式は158名の塾生が、また18日に行った補講には35名の塾生が参加しました。皆さんの式に臨む姿勢や眼差しからは、教師になる夢を実現するために頑張っていこうという前向きな気持ちを感じられました。卒塾を迎える6ヶ月後には、より成長した自分自身に出会えるように、仲間とともに学びを積み重ねていきましょう。



### 第1回京都市教育学講座

中央教育審議会会長 荒瀬 克己 先生

『これからの学校教育と教師の学びの姿 ～京都教師塾開講にあたって～』

第1回京都市教育学講座では、「教師の学びと子どもの学びは相似形」というキーワードのもと、塾生自身がどのように学んでいくことが求められるかや、「自立した学習者」として多様な子ども達が自分の学びをデザインしていけるような力を付けていくことの重要性などについてお話していただきました。

また、塾生の教職に対する不安や心配に対して、児童・生徒に誠実に接することや一人で抱え込まずに相談すること、目標となる先生(師匠)を見つけることが大切と、塾生に温かなエールを送っていただきました。



### 皆さんの学びの姿



- ・相手の目を見て、うなずきながら聴く姿
- ・同じグループの塾生の意見をメモする姿



- ・発表者に質問して、さらに考えを深める姿
- ・グループアドバイザーの先生方の実践や経験に熱心に耳を傾ける姿





## 仲間のレポートに学ぶ

このコーナーでは、「レポート集」に綴られた素晴らしい学びの1ページを紹介します。ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。

### 第1回京都市教育学講座

## 『これからの学校教育と教師の学びの姿 ～京都教師塾開講にあたって～』を受講して

これからの学校教育と教師の学びの姿というテーマの講義の中で、私は物事に対して問い続ける姿勢が大切であるということを知った。今回の講義を受けるまで、私は子どもに対してどのように学ばせるかが一番重要だと考えており、教師自身の学ぶ姿勢に対して深く考えることがなく、変わりゆく教育現場にいかに対応できるかが大切であるとばかり考えていた。そのため教師に求められるのは応用力とばかり考えていたが、子どもの学ぶ姿勢と教師の学ぶ姿勢は相似形であるということを知り、子どもにどのように学ばせるかだけではなく、自分自身がどのように学びに対して真摯に向き合えるかが大切ということを知った。また、信頼関係を周りの人間と構築するにあたってどれだけ周りの人間とコミュニケーションを取って一人にならずに自立ができるかということが大切であることを学んだ。自立という漢字に二通りの表し方があるのは知っていたが、その二つがどのように使い分けをされているかを知らなかったため、自立ということは一人で何でもこなすことではないということを知って驚いた。

講義を踏まえて分散会では疑問をただ持つだけではなく、それをどのように発問するかということが大切だと考えた。グループワークをする中で「問いを立てることが重要」と読み取った人が多くいたが、それを踏まえて実行したいこととして、「ほめ方やしかり方」「現場での実践」など学んだことをいかに生かすかという部分に目を向けている人がたくさんいた。それを踏まえて疑問を常に持ち続けることと、その疑問を周りの教員仲間や児童にどのように発問するかを考えることが重要であると考えた。

今回学んだことから、私は周りとのコミュニケーションを積極的に取ることにチャレンジしたいと考えている。私は周りとのコミュニケーションを取るのが苦手で児童相手にならコミュニケーションを取ることができるのだが、年齢が近い人や目上の人になると萎縮してしまい、なかなかコミュニケーションを取ることができない。しかし、今回の講義で、疑問を立て続け、その疑問をどのように発問するかが重要になると学び、疑問を立てるには物事を深く観察する必要があり、発問するためにはコミュニケーションが必須となる。そのため、教師塾の中や学生ボランティアを通してコミュニケーションを積極的に取ることにチャレンジしていきたいと思う。

自分の考えをみつめながら、全体会からの習得、分散会での気づき、今後の自分の課題設定と、しっかりと学んだことが分かります。『つなげ、広め、深め』られましたね。分散会で、学んだことの活かし方は、人によって様々だったのですね。それをヒントとして、自分に必要な自分に可能な実践を見つけてください。問いを立てるためにも発問していくためにも、観察力と察知する感性を学校や教師塾、日常生活でも磨いてください。私たちは教師を目指す塾生の皆さんの応援団です。今のことや先のことの相談や悩みがあれば、レポートを通じて、また電話や直接話すこともできます。遠慮なく声をかけてくださいね。

～クラス担当スタッフからのコメント～

## 次回は、 京都市教育学講座③ 若手教員 パネルディスカッション『教師の喜びと厳しさ』



新規採用5年目までの先生方に、日頃の実践を踏まえながら、『教職のやりがい』や『児童・生徒との向き合い方』『授業で大切にしていること』『挫折をどのように乗り越えていったか』などについて語ってまいります。実際に現場にたってみてからの率直な思いや考えを聴くことができます。若手教員の先生方の前向きなエネルギーを感じながら、『教師の喜びと厳しさ』について考えていきましょう。